

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人理念の「心に触れ、願いに気づき、必要に応え、信頼を築いていく」を基本とし、認知症になっても「社会の一員として、地域で暮らすことを支える」ことを目指している。グループホームに住まう人の状態に合わせ、理念を再確認し、スタッフの言葉で理念を見直しながら考えを深めている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日のミーティングやカンファレンスにおいて、日常的に話し合いをもちながら、理念の共有に努めている。管理者とスタッフは、毎月チームと個人の目標を掲げ、取り組みを振り返りながら気づきを共有したり、目指す方向を確認し合っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>グループホームの理念や役割が、家族や地域の方に理解されるよう、ホーム便りの発行や運営推進会議の中で、「社会の一員として、地域で暮らすこと」を目指した活動内容を報告し、折りに触れ繰り返し伝えていく。</p>	<p>今後も町内会の活動に継続して参加しながら、近隣住民に理解していただけるよう取り組んでいきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>クリーンパートナーとして地域の清掃活動をしたり、学校へ雑巾などの手づくり品を寄贈したり、入居者のできることを大切に活動している。管理者はキャラバンメイトとして講座を開催したり、小学校へ読み聞かせに出向き、認知症の理解に向けた活動を続けている。又、地域の行事にも参加(バザーへ手作り品の寄贈、公民館文化祭への作品出展、中学生職場体験の受け入れなど)、住民の方との交流を図っている。</p>	<p>自分たちのできることを少しずつ「継続」していくことが大切であることを、スタッフは共通認識している。入居者の心身機能の低下に伴い、参加が難しい状況もあるが、入居者と共に、一緒に楽しみながらこれらの活動を続けていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>必要な時に適切に、情報を提供したり制度を活用できるよう、理解度を確認していく。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>見守りが見張りになっていないか、馴染みが馴染み合いになっていないか、強者弱者の関係になっていないか、何気ない日常のかかわりを丁寧に振り返りながら、今後も取り組みを継続していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・制度改正時は、できるだけわかりやすい言葉で、相手の理解度を確認しながら、重要事項を丁寧に説明するように努めている。本人や家族の話をよく聴き、何でも不明点・疑問点をたずねていただけるような雰囲気にも配慮している。	
11	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常のさりげない会話や入居者の些細な表情の変化から、望んでいること・不満に思っていることを察することができるようにしている。それらをチームで共有し、意向に対するかかわりを検討している。	まだまだ十分に意見をくみ取ることができていないこともあるので、入居者にとっての最善をつくりだせるようかかわっていききたい。
12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りの発行や、運営推進会議の報告に加え、一人ひとりの入居者の様子(うれしかったこと・たのしかったことなど)や健康状態(受診内容を含む)、支払いを代行した場合の使途を明確にした明細等、毎月手紙や写真を添付し伝えている。	今後も、ご家族との信頼関係を強化できるよう、きめ細かな報告を継続していききたい。
13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事や運営推進会議への参加時などの来訪の機会を大切に、何でも気軽に話せるような雰囲気をつくっている。「どんな些細なことでもご意見ご要望をお聞かせ願いたい」ことを働きかけアンケートをとったり、意見箱の利用なども適宜促している。	
14	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に入居者の傍らで取り組んでいるスタッフ一人ひとりの意見や気づきを大切にしている。折りに触れ声をかけ、聴く耳を持ち話し合っている。	
15	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その時々々の入居者の状態・要望・意向に合わせ、これまでの生活をできるだけ継続させたかかわりができるよう、必要に応じ勤務体制を調整している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>日常的に法人内スタッフと交流の機会をもち、顔馴染みの関係をつくることにより、やむを得ない異動のダメージを最小限に抑えるようにしている。新採用された場合も、入居者の反応を正確に捉え、無理せず受け入れていただけるよう、詳細な引継ぎや仲介をしている。</p>	
5. 人材の育成と支援			
17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内では研修委員会による研修の企画をし、スタッフの意見を反映させながら開催している。又、外部研修にも参加の機会をつくり、サービスの質の向上を目指している。適宜、参考文献を提供したり、意見交換するなど、一人ひとりの介護観を深めていけるよう取り組んでいる。</p>	
18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区・県・全国のグループホーム協会、日本認知症ケア学会等に参加し、研修会参加の機会を得ながらサービスの質の向上に努め、ネットワークをつくっている。また、他グループホームとの事例検討会や家族の集いへの参加など交流している。</p>	
19	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常的にスタッフの様子(表情や入居者へのかかわり)を把握し、ストレスや疲労を溜め込む前に解決に向けている。スタッフ同士がお互いを認め合えるよう人間関係を調整したり、勤務の希望を受け入れたり、気分転換できる休日の機会を設けるようにしている。</p>	
20	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者は、スタッフへの学習の動機づけとなるよう、問題提起をしたり、文献を提供したりしている。又、目標に対する評価を活用し、それぞれのスタッフに応じた助言や一緒に考える機会をつくっている。又、健康管理や資格取得に向けた支援を行なっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>始めから相手の心に無理に入り込もうとせず、本人の置かれている状況の把握に努め、話をよく聴いている。これまでの在宅介護を労い、また今後の生活に安心や希望を持てるよう、本人にとっての困りごとを受け止める姿勢を大切にしている。必要に応じ制度やグループホームの暮らし、認知症について話しながら安心感を作り出している。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居申し込みを前提にしたグループホームの見学や相談が多いが、グループホームの入居が本人にとって最善(適切)かどうかをよく考えている。その方の生活を支えるため、必要に応じて、適切な関係機関に相談し橋渡している。相談時の出会いを大切にしている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心して今後の生活を営めるよう、環境への慣れや入居前の関係づくりが大切であることを、ご家族に理解していただけるようお伝えし、可能な限り入居前にホームに足を運んだり、スタッフと顔を合わせる機会をつくれるよう、家族と協力している。その際には、少しでも不安を軽減させ、本人の意向をくみ取れるよう、丁寧なかかわりをしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>スタッフは、生活のパートナーとしての意識を強く持ち、様々な場面において共に感情を分かち合っている。生活の多くの場面で入居者の知恵や技に支えられ、助けられたり教わったりしている。暮らしの主役である入居者への感謝や尊敬の念を常にあらわしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>グループホームに入居したことが、家族との関係を希薄にさせたり切り離すことにならないよう、家族の持てる力を大切にしている。ホームでの生活ぶりを詳細にお伝えし、家族の思いもくみ取りながら、一緒に本人を支えていけるよう折に触れお伝えしている。</p>	
26	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>スタッフは、本人と家族の関係を踏まえながら、これまで以上にお互いの存在を認め合い支えあうことができるよう仲介役になっている。「家族の集い」に参加し、認知症を抱える家族の苦労や苦悩・貴重な体験に触れることで、家族支援に役立っている。</p>	
27	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>これまでの人生を振り返り、自信や満足感を得ながら生活できるよう、本人をとりまくものとのつながりを把握しそれらを大切にしている。スタッフの仲介により、これまで大切にしてきたことや人とのかかわりを継続できている。</p>	<p>グループホームに入居しても、これまで大切にしてきたものをあきらめる必要がないことを家族に理解していただき、その継続のために一緒に取り組めるよう働きかけを続けていく。</p>
28	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>他入居者の存在が大きな安心感につながるよう、年を重ねていくことへの不安や思いをわかり合い、互いに支え合っていけるよう、生活のあらゆる場面で入居者間の関係を仲介している。</p>	
29	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>契約が終了しても、様々な相談に応じる姿勢を示し、開設以来、退居されたご家族とも連絡を取り合うなど、一人ひとりの出合いを大切にできている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>生活支援の場であることを意識し、24時間の流れを把握している。健康状態や本人の表情・言動、職員のかかりによる本人の反応やエピソードを大切に記録している。それらの情報を共有し介護の過程を振り返ったり、その後のケアにつなげている。</p>	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>さらに本人の状況に応じたかかわりができるのではないかを検討しながら、本人や家族の意向に、できる限りの対応(受診の介助等)をしている。</p>	<p>画一的なサービスではなく、それぞれの入居者のニーズを前向きに捉え、少しでも本人の満足につなげることができるよう、工夫点を見出していく。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>社会の一員として生活することを支援するために、公民館や小学校の行事に参加したり、運営推進会議での民生委員からの貴重な助言により、地域とのかかわりが継続されている。</p>	
38	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>地域の他のケアマネジャーや事業者と折りにふれ相談ができているが、他のサービス利用には至っていない。</p>	<p>生活をさらに豊かにするため、本人の意向を十分にくみ取り、必要に応じ、多様なサービス活用を支援していきたい。</p>
39	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>グループホーム内で解決の糸口を見出せない時など、相談にのっていただいたことがある。運営推進会議への出席により、助言をいただきサービス提供の参考の機会になっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者と家族の希望により主治医を決定し、適切に受診できるように支援している。受診の方法についても、状態の変化に合わせ相談しながら健康管理している。</p>	
41	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>近隣の医療機関の医師に相談し、適切な対応ができるよう指示や助言を受けている。又、研修参加の折など、専門医への相談をしたり助言を受ける機会を得ている。</p>	
42	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>管理者である看護師が中心となって、日常の健康管理や受診の介助を行なっている。又、病院の地域連携室の看護師等への相談をしながら、医療との連携を強化している。</p>	
43	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院という環境の変化による入居者の受けるダメージが大きいことを認識しており、症状の安定した時点で早期に退院できるよう主治医や家族と話し合っている。入院中はなじみの関係を活かし、傍に付き添ったりしている。</p>	<p>スムーズな医療機関との連携に向け、受診時の適切な情報提供を行うなど、専門職としての信頼関係を築いていきたい。</p>
44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居の時点から、健康管理に関する本人と家族の考えを把握し、医療との連携を図れるようにしている。体調の変化に伴う考えの変化を適宜話し合い、意向の確認をしている。主治医とも今後の方針等確認している。</p>	
45	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>なじみの関係の中で安心して人生の終盤を過ごせるよう、日常の健康管理において詳細な報告をし、医療との連携を図っている。最期まで生きることをどう支えるかについて、スタッフ間で話し合いを重ねながら支援している。</p>	<p>これまで、看取りの実践がないため、重度化や終末期に向けた支援について、様々な不安はあるが、現状をよく見極め、「自分たちのできることを明確にしながら検討し、前向きに取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退居時は、これまでの暮らしやケアの継続を図るため、その方をとりまく全ての関係者と連携し、サマリーを活用したり、情報の共有に努め、本人の不安や混乱を最小限にするよう努めている。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	これまでの人生に誇りを持ち続けながら過ごせるよう、認知症であっても人としての価値に変わりなく尊厳を守っていくことが大切であることを折に触れ話し合っている。「自分だったら」と立場を置き換え考えることで、排泄や入浴時などのさりげない声かけや繊細な心配りができている。		「一人ひとりを大切に想う」をモットーに、自らのかわりを客観的に振り返りながら、尊厳のある暮らしを目指していく。
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の些細なことでも、できるだけ自分自身で決定したり、選択したりする機会をたくさんつくっている。それにより主体性をもって生活することや、小さな満足感を積み重ねながら過ごせるようにしている。言葉だけに頼らず、表情やしぐさなどから本人の気持ちを理解できるよう努めている。		
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間で区切ったスケジュールではなく、体調や天気をみて入居者がどう過ごしたいかを引き出したり、入居者の「好きなこと・得意なこと・やりたいこと」を念頭に、「本人がしたいその時」の支援を心がけている。		入居者の重度化に伴い、時間的にゆとりがない時に、他入居者のペースを乱すことなく生活を支えるための工夫を重ねていきたい。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者や家族と相談し、協力をいただきながら、希望にあわせて理美容院を利用するなど、個性や生活歴・本人の意向を尊重し、身だしなみやおしゃれに配慮している。自らの整容を意識できるようにかわることで、生活意欲の向上や自尊心を高めていけるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や調理を一緒に行なうなど、食にかかわる生活行為を大切にしている。これまでの食習慣や郷土料理・旬の食材を取り入れることにより、下ごしらえなどの知恵を引き出したり、能力に応じて調理等にかかわることができている。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒など、これまでの習慣や嗜好の把握に努め、できる限り自宅での生活と同じように楽しむことができるよう支援している。咀嚼や嚥下機能に合わせ、食事の形態を工夫している。		
53 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄行為のどの部分に支援が必要かを考え、できるだけ排泄の自立に向けた支援を行なっている。排泄機能の低下がみられる入居者の支援も、「快」の状態をつくり出す支援に努めている。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	スタッフの都合による効率的な入浴の支援ではなく、一人ひとりにとって満足のいく入浴になるよう、気の合う入居者同士での入浴や職員も一緒に脱衣するなど、一人ひとりの状況に配慮しながら支援している。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人にとっての活動と休息のバランスがとれるよう、生活リズムを整え、日中の過ごし方を工夫している。外出や入浴などの活動による疲労感や年齢・健康状態を考慮し、適宜休息できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴や習慣を大切に、さらに「できること・わかること」を把握し、一人ひとりの役割を見出している。本人にとってそれらが本当に喜びや満足・やりがいにつながっているかを見極めながら支援している。		


	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物や受診時に支払いができるよう支援したり、小額の金銭の管理を見守り、入居者一人ひとりのお金に対する想いを理解している。</p>		
58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>入居者にとっての外出は、様々な面で大きな意味があることを十分に理解し支援している。一人ひとりの心身の状況に配慮しながら、移動手段を工夫し、買い物や散歩・ドライブなどに出かけている。が、身体機能の低下に伴い、十分な外出支援が出来ていないケースもある。</p>		<p>一人ひとりの希望や身体状況に合わせ、個別の外出支援をさらに充実できるよう取組んでいく。</p>
59	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>これまでの習慣を大切にしたり、本人の楽しみごとの機会をできる限りつくれるように支援をしている。</p>		
60	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>大切な人とのつながりが途切れないよう、電話での会話を仲介・代弁したり、代筆による手紙の返信をしている。</p>		
61	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>いつでも訪問していただけるよう、スタッフはやさしい笑顔での対応を心がけている。近況を報告したり、会話を仲介しながら、和やかに本人との時間を過ごせるよう心づかりをしている。併設のケアハウス入居者やデイサービス利用者も気軽に立ち寄り、交流が図れている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束のないケアを実践するために、行動の制限や言葉による抑制など、具体的な行動を示し、「本人の想いを大切にした暮らし」「自由で安らぎのある暮らし」の支援に向け検討しながら、スタッフの意思統一を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>入居者の表情や行動をよく捉え、外出の意志を把握し、日中は玄関に鍵をかけずに自由に入出入りしている。建物の構造上の死角を補助するため、センサーマットを使用し、安全と自由のある暮らしを目指している。併設施設の職員とも連携できている。</p>	<p>今後も、離設時等に近隣の協力も得られるよう、日常的なかかわり(回覧板をまわしたり、清掃活動、散歩など)により、顔見知りの関係をつくっていく。</p>
64	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>スタッフの心配りや声かけによる見守りをし、所在や安全の確認をしている。</p>	
65	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>一人ひとりの身体機能や認知症状を踏まえ、予測される危険を把握しながら、注意の必要な物の取り扱いをしている。入居者の能力に応じ、活動意欲を引き出すためにも、過剰な管理ではなく、生活の場としての雰囲気大切にしながらの安全の確保を工夫している。</p>	
66	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>日常生活の中の「ひやりはっと」を見逃さないよう、かかわりを振り返っている。スタッフ間での情報共有と意見交換により、事故防止のための原因分析や対策の工夫を重ねている。</p>	
67	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>緊急時の対応マニュアルを作成し、適切に対応できるよう時々折りに触れ確認し合い、急変時・事故発生時に備えている。スタッフ一人ひとりの知識や技術を身につけるため、応急手当講習会等に参加したり、シミュレーションをしている。</p>	
68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力の下、避難訓練・通報訓練・消火訓練を年2回実施している。日常的に災害対策を意識づけるため、実際の地震の際に避難誘導するなど、繰り返し訓練したり、シミュレーションしている。地域と交流しながら、災害時の連携・協力について働きかけを継続している。</p>	<p>今後も、町内や地域活動に参加を継続することで、災害時の連携・協力が得られるよう働きかけていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		<p>本人の意思で「口から摂ること」を大切に、一人ひとりの状況に合わせ、時間をかけて「生きる」を支援する姿勢を継続したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
76	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
77	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
79	<p>共用空間における居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で心地よく過ごせるよう、本人やご家族と相談しながら、なじみの物や大切な写真・装飾品をしつらえるようにしている。		
81 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓を開けたり、換気扇や空気清浄機を使用しながら、臭いや空気のだよみがないよう配慮している。温湿度を把握しながら、入居者の訴えをよく聴き、手足の冷感や発汗・顔色などを観察しながら、衣類の調節と合わせ室温調節をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	座位時の姿勢の保持を助けたり、手すりを追加設置したり、それぞれの入居者の身体機能の低下に伴い、危険防止や活動意欲を低下させないよう、環境改善を工夫している。		
83 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの「わかること・わからないこと」を把握することでそれらを活かし、不安や混乱、失敗を招かないように支援している。車椅子利用の入居者の目の高さに合わせたカレンダーの設置など、本人の「わかる」ための支援をしている。		
84 建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前や裏庭のスペースを、なじみの暮らしの継続・力の発揮・他者との交流、気分転換、機能訓練に活用している。屋内では、天窗の下の明るいスペースで体操したりお茶を飲んだり、広い廊下に作品を飾ったりと、入居者の楽しみごとに活用している。		

( は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・私達スタッフが、入居者の方にとって「人生最期に会う人」になるかもしれないという、貴重な出会いを真摯に受け止め、一人ひとりを大切に、心のこもった丁寧なかかわりと、暮らしの中で「本人にとっての最善」をつくりだすことを心がけている。
- ・スタッフは、入居者のできること・得意なこと・好きなことを大切に、これまでの人生に誇りを持ち続けられるようなかかわりを目指している。一人ひとりのできることを重ね合わせ、～こころの作品展～として、家族や地域の方にみていただき、認知症になっても、すべてがわからなくなるのではないことを伝えている。
- ・認知症になっても地域・社会の一員として、生活し続けるために、積極的に地域行事に参加したり、清掃活動などできることに取り組んでいる。
- ・近隣の小学校に読み聞かせに出向いたり、認知症サポーター養成講座を開催し認知症の理解に向けて活動している。